

日本天文学会春季年会記事

本会の春季年会は5月16日から18日まで、東京本郷の東大医学部総合中央館3階集会室で開かれた。今回はとくに研究発表が多かったので、16日午前、午後と17日午前中は2会場にわかれて進行した。連日100名以上の会員が出席し、3日間に合計101の研究発表が行なわれた。18日午後は石田憲一、寿岳潤両氏を講師として、シンポジウムが開かれた。

講演の部門別の数、および座長は次のようである。

会場	部門別	講演数	座長
第1	第1日午前	位置天文学	11 宮地, 弓
"	" 午後	{位置天文学 天体力学}	14 上田, 坪川
"	第2日午前	{天体力学 恒星天文学}	11 秋山, 清水
第2	第1日午前	天体物理学(恒星)	10 藤田, 高窪
"	" 午後	"	16 村上, 上野
"	第1日午前	{天体物理学(太陽系) 実験観測装置}	10 鈴木(義), 宮本
共通	第2日午後	{天体物理学(恒星) 電波天文学 天体物理学(太陽)}	15 畑中, 吉田
"	第2日午前	天体物理学(太陽)	12 野附, 一柳
"	第3日午後	シンポジウム	清水, 一柳

17日正午より総会が開かれた。藤田良雄理事長が議長となり、安田理事による昭和37年度会務報告、関口理事による昭和37年度会計報告、38年度予算案の説明があり、原案通り可決、次に次期理事長、副理事長の選挙および理事の指名があった。会務および会計報告新役員は別項の通りである。

次に天体発見賞の授与にうつり、本田美氏に昭和37年4月29日の彗星発見に対し、また池谷薫氏に昭和38年1月3日の彗星発見に対し、天体発見賞が授与された。両氏に対する表彰状は別項に掲げた。

昭和37年度会務報告

昭和37年度は本会創立55年度、社団法人設立後29年にあたる。

本年度に行った事業

(イ) 出版 (1) 欧文研究報告 Publications of the Astronomical Society of Japan

第14巻 第2号 90頁 昭和37年6月発行
第14巻 第3号 128頁 昭和37年9月発行
第14巻 第4号 114頁 昭和37年12月発行
第15巻 第1号 106頁 昭和38年3月発行

(2) 天文月報 第55巻第5号—第56巻第4号を毎月発行

(ロ) 年会 (1) 春季年会 昭和37年5月10, 11, 12日

東大医学部中央総合館に於て

講演 76 シンポジウム 2 (大脇直明 球状星団について、西恵三 太陽面の微細現象について)

(2) 秋季年会 昭和37年10月10, 11日 緯度観測所(水沢市)に於て
講演 65

(イ) 東京天文台公開の後援 昭和37年10月6日(土) 午後3時~8時 台内設備及び資料の公開を後援した

総会及び評議員会

(イ) 総会 昭和37年5月11日(金) 東京大学医学部中央総合館に於て 出席者約100名

議長 藤田理事長

議題 ① 昭和36年度会務・会計報告

② 昭和37年度予算案

③ 評議員の半数改選

④ 名誉会員の推薦

⑤ 天体発見賞および功労賞の授与

(ロ) 評議員会 (1) 昭和37年4月27日(金) 学士会館本郷分館において

議長 野附誠夫氏

議題 ① 昭和36年度会務・会計報告及び昭和37年度予算案

② 評議員半数改選について

③ 天体発見賞に関する件

④ 大塚奨学金選考結果

(2) 昭和37年5月10日(木) 学士会館本郷分館において

議長 上田 穰氏

議題 ① 総会上程議案の確認

(3) 昭和37年7月13日(金)

議長 鈴木政岐氏

議題 ① 外国会員の会費改正について

(4) 昭和38年3月31日(土) 東京大学天文学教室会議室

議長 野附誠夫氏

議題 ① 次期理事長、副理事長、編集長について

② 会費値上げについて

その他の主な会務

(イ) 昭和37年5月 評議員半数改選を行った。

(ロ) 昭和37年5月 名誉会員に早乙女清房、福見尚文、上田 穰の三氏を決定した。

(ハ) 昭和37年5月 総会席上、関勉氏に天体発見賞を、林弘氏に功労賞を授与した。

(ニ) 昭和37年度より外国特別会員会費を年8ドルに改

正した。

- (イ) 昭和37年度研究刊行補助金として昭和37年9月文部省より本会欧文研究報告に対して180,000円が交付された。
- (ロ) 昭和38年1月日本学術会議中央選挙管理委員に堀源一郎氏を推薦した。

会員数及び役員等

- (イ) 会員数 特別会員 236 (237) 名誉会員 3 (0)
- 通常会員1,037 (906) 終身会員 11 (13)
- 賛助会員 12 (11) 外国会員 7 (4)
- ただし () 内は昨年度の数

昭和37年度金計報告 (決算書)

単位円

収 入		摘 要	支 出		摘 要	
会 費	821,985	外国会員7名を含む	欧文報告調製費	1,416,735	内複製費	411,300円
賛助会費	200,000	12社20口	天文月報	834,970		
欧文報告販売	443,066	うちバック	諸印刷物	533,252	会員名簿	98,600円
欧文報告委託出版	300,000	ナンバー	送 料 通 信 費	239,446		
天文月報販売	94,837	総合研究より	定 会 費	45,695		
諸印刷物販売	680,615	うちバック	謝 金	78,395		
利 子	82,500	ナンバー	交 通 費	23,530		
印 税	529,593	年間請求総額	物 品 費	23,743		
刊行補助金	180,000	うち	雑 費	128,690	{大塚奨学金	60,000円
雑 収 入	192,787	大塚資金利子			{天体発見賞	40,000円
		75,910円				
		文部省より				
小 計	3,525,383		小 計	3,324,459		
前年度よりの繰越	123,720		次年度への繰越	324,644		
合 計	3,649,103		合 計	3,649,103		

総会において昭和38年より向う2か年間の新役員として次の諸氏が選任された。

◇ 次期理事長、副理事長

評議員会の推薦にもとずき次の各氏が次期理事長および副理事長に選任された。

- 理事長 一柳寿一
- 副理事長 虎尾正久、上野季夫

◇ 理 事

一柳新理事長より次の諸氏が理事に指名された。
 庶務 松波直幸 会計 北村正利
 編集 (欧文報告) 畑中武夫、河鱒公昭、古在由秀
 (天文月報) 下保 茂、関口直甫、前山仁郎、水沢 須川 力、仙台 高窪啓弥、京都 藤波重次

中国四国 三沢邦彦

地方理事 (水沢) 若生康二郎 (仙台) 菊池定衛門
 吉田正太郎 (京都) 小暮智一、斎藤澄三郎 (中国四国) 石田五郎 (東京) 赤羽賢司、石田蕙一、大城義名、大脇直明、甲斐敬造、上条文夫、下田真弘、檀原 毅、富田弘一郎、西 惠三、平山 淳、牧田 貢、安田春雄、山下泰正

なお欧文報告編集および大塚奨学金の委員には、次の諸氏が指名された。

- ◇ 欧文報告編集委員 広瀬秀雄、一柳寿一、宮本正太郎、清水 彊、須川 力、末元善三郎、海野和三郎
- ◇ 大塚奨学金選考委員 野附誠夫、藤田良雄、虎尾正久、清水 彊、古畑正秋、今川文彦

本田、池谷両氏への表彰状

表 彰 状

日本天文学会会員 本田 実殿

あなたは昭和37年4月29日早曉、倉敷天文台の12センチ双眼彗星探索鏡を用い、ペルセウス座に光度8等の尾のない彗星を発見されましたが、これはあなたが世界で最初に発見されたものであることが確認されました。

あなたは20年以上も彗星探索に精進され、今回はあなたが独立発見した彗星の第8番目に当っており、日本天文学会の天体発見賞の受賞はこれが4回目であります。このように熱心な努力を長年にわたり継続されたことは本邦には類例のないことで、深く欣快に存ずるところであります。本会はここに天文学の進歩及び普及に特別の功労があったものとして賞牌並に金一封を贈呈して表彰する次第であります。今後ますます天文学の進歩の